

## 指定管理者管理運営状況評価（案１）

施 設 名	千葉県袖ヶ浦福祉センター
指 定 管 理 者	社会福祉法人千葉県社会福祉事業団
指 定 管 理 期 間	平成 28 年度～平成 29 年度
評 価 対 象 年 度	平成 27 年度
第三者評価の有無（今回）	有
施 設 所 管 課	健康福祉部障害福祉課

### 1 施設の設置目的等

設 置 目 的	知的障害者及び知的障害児の福祉の向上
指定管理者が行う業務の範囲	① 障害者支援施設の業務 ② 福祉型障害児入所施設の業務 ③ 外来患者の診療及び訓練 ④ その他センターの目的を達成するために知事が必要と認める業務

### 2 施設の運営状況

年度	利用者（人） ※ 1	事業費等の内訳（千円）					
		指定管理料 (A)	その他維持 管理費(B)※ 2	利用料金 (C)	事業費総額 (A+B+C)	使用料等 県収入(D)	県の収支 (D-A-B)
25	73,862	766,374	46,194	739,514	1,552,082	1,937	△810,631
26	69,972	780,485	60,988	673,994	1,515,467	2,036	△839,437
27	64,260	786,953	55,566	657,737	1,500,256	2,238	△840,281

※1 カウント方法：入所、短期入所、日中一時支援、通所及び通院の延人数

※2 維持補修費、委託料、工事請負費、備品購入費（指定管理料に含まれるものを除く）

### 3 管理運営状況評価

評 価 項 目		評価	評 価 理 由 等
管理業務の実施状況に関する事項	施設の設置目的・法令等の遵守等	A	・平成 27 年度から虐待防止委員会を権利擁護委員会に名称を改め、幅広く権利擁護やサービス向上について検討する場とし、意見を職員へも周知している。
	安全性の確保	A	・現場の職員会議から理事会や評議会など様々な会議や委員会において事故等の発生状況を共有して、再発防止策等についても検討するなど、継続的に取り組んでいる。
	適切な管理運営	A	・委託業務においては、仕様書の再確認などを行い適切に委託できるよう取り組んでいる。 ・器物破損の修理及び老朽化による部品の交換や更新等、施設を効率的に運営するための改修などを実施している。
	適切な財産管理	A	・備品の適正な管理に努めている。
事業の企画運営に関する事	事業の実施（必須事業）	B	・利用者の移行に向けた仕組みづくりの検討や移行の適正さを担保するため、外部有識者等も参加する移行ワーキングチームを設置し、移行の推進に取り組んでいる。

評 価 項 目		評価	評 価 理 由 等
項	サービスの向上 自主事業 地域の連携等	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強度行動障害者支援に関する支援技術が向上するよう、引き続き取り組むこと。</li> <li>・個別（入所）支援計画作成やモニタリングに保護者や医療職等が参加するよう努めている。</li> <li>・利用者の意思の把握にさらに努めること。</li> <li>・保護者との連携強化、保護者への情報発信の充実に努めている。</li> </ul>
施設利用状況に関する事項		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養育園の利用者人数は 699 人・利用率は 72.8%、更生園の利用者人数は 1,032 人・利用率は 96.4%。</li> <li>・定数半減を目指すとした検証委員会の提言を受け、県の方針として新規受入れを停止したことにより、利用率は低下している。</li> </ul>
管理運営体制		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他寮からの職員の応援など、柔軟な応援・協力体制の運用に努めている。</li> <li>・グループディスカッションの実施や施設長の巡回時の職員との対話などにより、風通しのいい職場環境の構築に努めている。</li> <li>・医療職と支援員の連携が進んでいる。</li> </ul>
収支状況		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の新規受入れ停止を継続しているが、平成 27 年度は収支の均衡を確保した。</li> </ul>
利用者意見の反映 利用者満足度		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の来園時や苦情解決第三者委員の巡回ときなどに聞き取りを行っている。</li> <li>・苦情解決第三者委員の相談窓口機能が充実するよう、引き続き検討すること。</li> </ul>
総 合 評 価		一部 良好 でない	

特記事項	特に評価される点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設長等の現場巡回等、支援に精通した幹部役職員が現場を把握して様々な見直しに取り組んでいる。</li> <li>○委託業務や備品の管理業務が適切に行われている。</li> <li>○グループディスカッション等により、職員同士が意見交換しやすい雰囲気の醸成と情報の共有化に努めている。</li> <li>○医療職と支援員の連携が進んでいる。</li> <li>○アンケート（満足度調査）において、「満足」と回答する保護者の数も減少傾向にあるものの、「不満」と回答する保護者の数も減少した。</li> </ul>
	次年度に向けて 改善が望まれる点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適切な時期に県への報告ができるよう、運用体制の見直しに引き続き取り組むこと。</li> <li>○長期ビジョンに基づく個別支援計画を作成し支援へ反映させること。また、地域移行も考慮した支援に引き続き取り組むこと。</li> <li>○利用者の民間施設・地域への移行に向けた取組みの強化を検討すること。</li> </ul>

	<p>前年度評価で改善が望まれると指摘された点とその改善状況</p>	<p>昨年度改善を要するとして指摘した点（長期ビジョンに基づく個別支援、養育園での保護者会との連携、地域移行の推進）については改善への取り組みが見られるので、引き続き改善に向け取り組むこと。</p> <p>県への報告を適切に行えるよう、引き続き改善を重ねること。</p> <p>利用者の実情に応じ、長期的な視点からの支援を引き続き検討すること。</p> <p>今後も、外部・地域との連携を強化して開かれた施設とし、サービスの質の向上と支援の充実に努めるとともに、利用者の民間施設・地域への移行の取組みの推進に努めること。</p>
--	------------------------------------	--

<p>第三者評価における その他の意見</p>	<p>（第三者評価を実施した場合）</p> <p>○地域移行について、専門機関の設立も含め、より多く多角的な情報を利用しながら強力に推進できる体制を整備すること。</p> <p>○現在の組織で可能な範囲における地域活動について、活動内容と実現手段を、それぞれ具体的に示すこと。</p> <p>○日中活動について、何のため、誰のための支援なのかという目的についてきちんと議論し、自己決定、自発的コミュニケーション、余暇の充実に軸足を置いた、具体的なプログラムを作ること。</p> <p>○特に更生園のデイケアの場について、少人数化の理念に基づいた、リラックスして休憩できる空間の整備を行うこと。</p> <p>○幹部職員は今後、地域福祉や個別支援計画のあり方、その実現方法を、県内外の他法人から積極的に学び、地域移行に向けた支援に活かすよう指導すること。</p> <p>○意思決定支援を行えるよう、意思の表示を強く促す具体的な事柄を、積極的に個別支援計画に盛り込むこと。また関連して、本人部会の創設も検討すること。また個々の利用者の利用者の居室において、より個性が反映された生活の場となるよう工夫すること。</p> <p>○支援全般、特に強度行動障害者への支援について、支援員一人ひとりが知識の習得に努め、研修などに参加した際はその成果をセンター全体に還元できるよう職場内伝達を行うこと。</p> <p>○センター内の課題に対し、担当者や直接の上司だけでなくセンター全体で対処にあたる姿勢を整えること。また、その結果をセンター全体で共有化し、個々の支援の向上に役立てること。</p> <p>○現在、利用者と同じ食事を摂っていない支援員が多いが、食事の理解は施設での生活において大きな比重を占めているため、利用者の生活の改善のため可能な限り同じ食事を摂るようにすること。</p>
-----------------------------	---

## 指定管理者管理運営状況評価（案2）

施 設 名	千葉県袖ヶ浦福祉センター
指 定 管 理 者	社会福祉法人千葉県社会福祉事業団
指 定 管 理 期 間	平成 28 年度～平成 29 年度
評 価 対 象 年 度	平成 28 年度上半期（4 月～9 月）
第三者評価の有無（今回）	有
施 設 所 管 課	健康福祉部障害福祉課

### 1 施設の設置目的等

設 置 目 的	知的障害者及び知的障害児の福祉の向上
指定管理者が行う業務の範囲	⑤ 障害者支援施設の業務 ⑥ 福祉型障害児入所施設の業務 ⑦ 外来患者の診療及び訓練 ⑧ その他センターの目的を達成するために知事が必要と認める業務

### 2 施設の運営状況

年度	利用者（人） ※ 1	事業費等の内訳（千円）					
		指定管理料 (A)	その他維持 管理費(B)※ 2	利用料金 (C)	事業費総額 (A+B+C)	使用料等 県収入(D)	県の収支 (D-A-B)
25	73,862	766,374	46,194	739,514	1,552,082	1,937	△810,631
26	69,972	780,485	60,988	673,994	1,515,467	2,036	△839,437
27	64,260	786,953	55,566	657,737	1,500,256	2,238	△840,281

※1 カウント方法：入所、短期入所、日中一時支援、通所及び通院の延人数

※2 維持補修費、委託料、工事請負費、備品購入費（指定管理料に含まれるものを除く）

### 3 管理運営状況評価

評 価 項 目		評価	評 価 理 由 等
管理業務の実施状況に関する事項	施設の設置目的・法令等の遵守等	A	・虐待防止のための組織は整っているため、今後は利用者の満足度を考慮しながら支援にも活かす工夫をすること。 ・苦情解決の窓口を、保護者にも利用者にもより知ってもらえるよう工夫すること。
	安全性の確保	A	・現場の職員会議から理事会など様々な会議や委員会において事故等の発生状況を共有し、再発防止策やサービスへの反映について検討するなど、継続的に取り組んでいる。
	適切な管理運営		
	適切な財産管理		
事業の企画運営に関する事項	事業の実施（必須事業）	B	・強度行動障害者支援に関する支援技術が向上するよう、引き続き努力すること。 ・利用者が民間施設や地域に移行できるよう、専門組織の創設も視野に入れ、より確固とした支援体制の構築に努めること。

評 価 項 目		評価	評 価 理 由 等
	サービスの向上 自主事業 地域の連携等	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の意思をより強く表示できるよう促す個別（入所）支援計画を作成すること。</li> <li>・長期的視野に基づいた個別（入所）支援計画を作成し、日々の支援に活かせるよう努めること。</li> <li>・保護者との連携強化、保護者への情報発信の充実、外部の視点での検討など、開放的な運営に努めている。</li> </ul>
施設利用状況に関する事項			
管理運営体制		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他寮からの職員の応援など、柔軟な応援・協力体制の運用に努めて課題等の共有化が図られている。</li> <li>・グループディスカッションの実施や施設長の巡回時の職員との対話などにより、一体性を確保した風通しのいい職場環境の構築に努めている。</li> <li>・他県や他法人の施設を見学する研修など、組織として意識的に充実した研修の実施を図っている。</li> <li>・研修内容が他の職員に確実に伝達されるような体制を構築すること。</li> </ul>
収支状況			
利用者意見の反映 利用者満足度		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の来園時や苦情解決第三者委員の巡回時などに聞き取りを行っている。</li> <li>・利用者本位のサービスの実現に向け、苦情解決の窓口機能が充実するよう検討すること。</li> <li>・本人も福祉や権利擁護に触れられる本人部会の創設等、利用者意見のさらなる把握に努めること。</li> </ul>
総 合 評 価		良好でない	

特記事項	特に評価される点	<p>○グループディスカッション等により、職員同士が意見交換しやすい雰囲気醸成に努め、若手職員が明るく前向きに頑張っている姿がうかがえる。</p> <p>○保護者会役員会と職員の合同会等、保護者との関係強化・開かれた施設づくりに取り組んでいる。</p> <p>○アンケート（満足度調査）において、「サービス全般」は約7割の保護者から「たいへん良い」「良い」の評価を受けている。緊急時の連絡や利用者の体調管理については約8割の保護者から高い評価を受けている。「最近1年間のサービスの質の向上」は約8割の保護者が「たいへん良い」「良い」と評価している。</p>
	次年度に向けて改善が望まれる点	<p>○利用者本人の意思を汲み取った支援への取り組みをさらに推進すること。</p> <p>○活発な議論や研修を通じて目的を明確化し、支援の意味を共有できるよう取り組むこと。</p> <p>○研修内容が確実に伝達される体制を構築すること。</p>



	<p>前年度評価で改善が望まれると指摘された点とその改善状況</p>	<p>昨年度改善を要するとして指摘した点（ボトムアップ型での見直し・改善の取り組み、目的の明確化と支援の意味の共有）については一定の改善が図られ、現在も継続的かつ積極的に改善に取り組んでいる。しかし今年度も同様の指摘を受けた事項もあるので、取り組みの強化や内容の拡充等、更なる発展を具体的な手段で進めること。</p> <p>今後も、外部・地域との連携を強化して開かれた施設とし、知識の習得と支援内容の目的の明確化を通じて、利用者の意向を反映させたサービスの質の向上と支援の充実に努めること。また利用者の民間施設・地域への移行の取り組みを、センター全体で積極的に推進すること。</p>
--	------------------------------------	---

<p>第三者評価における その他の意見</p>	<p>（第三者評価を実施した場合）</p> <p>○地域移行について、専門機関の設立も含め、より多く多角的な情報を利用しながら強力に推進できる体制を整備すること。</p> <p>○現在の組織で可能な範囲における地域活動について、活動内容と実現手段を、それぞれ具体的に示すこと。</p> <p>○日中活動について、何のため、誰のための支援なのかという目的についてきちんと議論し、自己決定、自発的コミュニケーション、余暇の充実に軸足を置いた、具体的なプログラムを作ること。</p> <p>○特に更生園のデイケアの場について、少人数化の理念に基づいた、リラックスして休憩できる空間の整備を行うこと。</p> <p>○幹部職員は今後、地域福祉や個別支援計画のあり方、その実現方法を、県内外の他法人から積極的に学び、地域移行に向けた支援に活かすよう指導すること。</p> <p>○意思決定支援を行えるよう、意思の表示を強く促す具体的な事柄を、積極的に個別支援計画に盛り込むこと。また関連して、本人部会の創設も検討すること。また個々の利用者の利用者の居室において、より個性が反映された生活の場となるよう工夫すること。</p> <p>○支援全般、特に強度行動障害者への支援について、支援員一人ひとりが知識の習得に努め、研修などに参加した際はその成果をセンター全体に還元できるよう職場内伝達を行うこと。</p> <p>○センター内の課題に対し、担当者や直接の上司だけでなくセンター全体で対処にあたる姿勢を整えること。また、その結果をセンター全体で共有化し、個々の支援の向上に役立てること。</p> <p>○現在、利用者と同じ食事を摂っていない支援員が多いが、食事の理解は施設での生活において大きな比重を占めているため、利用者の生活の改善のため可能な限り同じ食事を摂るようにすること。</p>
-----------------------------	---